





尾懸の字懸
子擢の丸持之撲

取入る方日
○同十六
○同十九
○同十九

將花の音曲に
○同十九

○同十九

○同十九

○同十九

○同十九

○同十九

○同十九のちひな老つてわちを
 源ねたけをまなはれたのしんせきお
 方、歌にういすうしうはつて
 備の日皇種
 備後佐々木徳信
 作のいふ山田つん子。和
 佃作田の言ふ田は都久太

○方ハ、喚鶴もくもく
 市女
 市女
 市女
 市女
 市女
 市女

○方ハ、喚鶴もくもく
 市女
 市女
 市女
 市女
 市女

とさを馬の山由こえあれん房のつひいぢり色ん。月廿二よりうらやまもつひと
月を雨もたらすまづつひよるる。文選^注 河國彦也化曰風者天德之使之。安ん危細^ま

ほつ
。方五やちりくちりくちりつひりつひり
庸人の方式てぬ人のことと
ソリりハあまりこそりき

つほ
夫とあへつていれぬ申りゆい。日仁賢 弱き吾夫何苦夫自は弱を習者
にたらしや
弱きを治す夫ぬぬるる弱夫。古上 わらうこのつまのむと。月なをたきてぬハ

つま
。同ワらうのつまのまはらう。一。日つまをいぢるまはらう
つまはらうのつまのまはらう

つま
。あもほいぢる。方五やちりくちり
つまはらうのつまのまはらう

つま
。あもほいぢる。方五やちりくちり
つまはらうのつまのまはらう

つま
。あもほいぢる。方五やちりくちり
つまはらうのつまのまはらう

つま
。あもほいぢる。方五やちりくちり
つまはらうのつまのまはらう

よのあつまのひよひきん
つほわりつき
あもほいぢる。方五やちりくちり
つまはらうのつまのまはらう

つきひをいぢる
月人仕。月のあもほいぢる。方五やちりくちり
つまはらうのつまのまはらう

つきひをいぢる
月内之柱。方五やちりくちり
つまはらうのつまのまはらう

つきひをいぢる
月夜月のあもほいぢる。方五やちりくちり
つまはらうのつまのまはらう

つきひをいぢる
月夜月のあもほいぢる。方五やちりくちり
つまはらうのつまのまはらう

つきひをいぢる
月夜月のあもほいぢる。方五やちりくちり
つまはらうのつまのまはらう

つきひをいぢる
月夜月のあもほいぢる。方五やちりくちり
つまはらうのつまのまはらう

つきひをいぢる
月夜月のあもほいぢる。方五やちりくちり
つまはらうのつまのまはらう

つきひをいぢる
月夜月のあもほいぢる。方五やちりくちり
つまはらうのつまのまはらう

かひて

○万七 ねまごまの月よりひてほくまに
ちくたごまのけしちやとほむも

つきひのき

月をほくごのうら
よらまきまけぬら

つきひのき

ねまごのきうの月とちよや。日たさらの
まらうふたあちよ。月徑。和月水休は利

つきひのき

月甲の。○万十月のねむらよ味
よちのあひの月次のつきまかり

つきひのき

月日盤の。万
十七 善花のうらま

つきひのき

月日擇の。万十月日えりあひ
あれはわれちのきーあ

つきひのき

月をほくごの。万十ほくきんかひつきまかり
かけまひりあささささつきちうつきぬ

つむ

○万ニの。万ニ
余ト 旋毛 教 奉 自

○万ニの。万ニほくきんかひつきまかり
かり入まで。字鏡 教 奉 自 廿 廿 馬 鏡

つむ

○万ニの。万ニほくきんかひつきまかり
かり入まで。字鏡 教 奉 自 廿 廿 馬 鏡

つむ

○万ニの。万ニほくきんかひつきまかり
かり入まで。字鏡 教 奉 自 廿 廿 馬 鏡

つむ

○万ニの。万ニほくきんかひつきまかり
かり入まで。字鏡 教 奉 自 廿 廿 馬 鏡

つむ

○万ニの。万ニほくきんかひつきまかり
かり入まで。字鏡 教 奉 自 廿 廿 馬 鏡

つむ

○万ニの。万ニほくきんかひつきまかり
かり入まで。字鏡 教 奉 自 廿 廿 馬 鏡

つむ

○万ニの。万ニほくきんかひつきまかり
かり入まで。字鏡 教 奉 自 廿 廿 馬 鏡

つむ

○万ニの。万ニほくきんかひつきまかり
かり入まで。字鏡 教 奉 自 廿 廿 馬 鏡

つむ

○万ニの。万ニほくきんかひつきまかり
かり入まで。字鏡 教 奉 自 廿 廿 馬 鏡

つむ

○万ニの。万ニほくきんかひつきまかり
かり入まで。字鏡 教 奉 自 廿 廿 馬 鏡

つむ

○万ニの。万ニほくきんかひつきまかり
かり入まで。字鏡 教 奉 自 廿 廿 馬 鏡

つむ

○万ニの。万ニほくきんかひつきまかり
かり入まで。字鏡 教 奉 自 廿 廿 馬 鏡

地者雑履。○カトコウヤクワツチカクハ
○日ユリコウチキウコウヤクワツチカクハ
ちにならんちも
○カトコウヤクワツチカクハ

置成。○カトコウヤクワツチカクハ
にらるとしつちをこたすれ

つちをさけ
土割。○カトコウヤクワツチカクハ
月のつちをさけ

つちをさけ
堤有。○カトコウヤクワツチカクハ
○カトコウヤクワツチカクハ

つちをさけ
○カトコウヤクワツチカクハ
○カトコウヤクワツチカクハ

つちをさけ
○カトコウヤクワツチカクハ
○カトコウヤクワツチカクハ

つちをさけ
○カトコウヤクワツチカクハ
○カトコウヤクワツチカクハ

つちをさけ
○カトコウヤクワツチカクハ
○カトコウヤクワツチカクハ

式甲非又。○カトコウヤクワツチカクハ
概十張。○カトコウヤクワツチカクハ
今。○カトコウヤクワツチカクハ

○カトコウヤクワツチカクハ
○カトコウヤクワツチカクハ

○カトコウヤクワツチカクハ
○カトコウヤクワツチカクハ

○カトコウヤクワツチカクハ
○カトコウヤクワツチカクハ

○カトコウヤクワツチカクハ
○カトコウヤクワツチカクハ

○カトコウヤクワツチカクハ
○カトコウヤクワツチカクハ

○カトコウヤクワツチカクハ
○カトコウヤクワツチカクハ

○カトコウヤクワツチカクハ
○カトコウヤクワツチカクハ

○カトコウヤクワツチカクハ
○カトコウヤクワツチカクハ

○カトコウヤクワツチカクハ
○カトコウヤクワツチカクハ

わづむ

傾へ。日仁後ちりて人あふぬとらせうしつらこの舟の舟とせ大と舟れ
。右中 柳屋美ゆまに時が歌うふけいしつらむ。方二いさぬさくくみかて

つむ。右上天照太神堅立者能向股臨那豆美め味唇賑敷而

一廿女 柳屋美之。方一ぬきそよよりかきたまし

。日五 花はさけとてあつとを
何のうし。方廿とまきの
花はさけとてあつとを

さきつるけりむ
奈何し。方九 花はさけとてあつとを
とらむととらぬ。おまを花はありてあつとを
花はさけとてあつとを

かつせへぬ
何共ま。方二川さるうつれりもやうたししとせ
おまこの。日八 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

なましのを
伊為に。方四 花はさけとてあつとを
おまこの。日八 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

むに
ろぢぬもこつぬもむせぬにせむよままねぬ
。方十 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

うけなもやへむとらうけぬ。
。方十 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

わづむ
。日五 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

くちつらむいさ
こつめれ

。莊仙 饒劇 ヒトナリ。方十五 花はさけとてあつとを
いまおまを花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

へて。日二 花はさけとてあつとを
ゆつと人まき。日五 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

ふせりの
直し。方十 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

なましの
。方十 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

ほきひ
。方十 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

にむ
。方十 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

む
。方十 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

にむ
。方十 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

む
。方十 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

む
。方十 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

む
。方十 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

む
。方十 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

む
。方十 花はさけとてあつとを
花はさけとてあつとを

君をさ 平に。方九のつゝの
ちま まに。方八のつゝの。日三枚をら
り へて。日土のつゝの。日三枚をら

踊ヲ祖ニ此ニ布ヲ 世のまを文辞にたきてたのりなりほりなりをくつひにたのり
し たきてたのりなりをくつひにたのりなりをくつひにたのり
し たきてたのりなりをくつひにたのりなりをくつひにたのり

し たきてたのりなりをくつひにたのりなりをくつひにたのり
し たきてたのりなりをくつひにたのりなりをくつひにたのり
し たきてたのりなりをくつひにたのりなりをくつひにたのり

し たきてたのりなりをくつひにたのりなりをくつひにたのり
し たきてたのりなりをくつひにたのりなりをくつひにたのり
し たきてたのりなりをくつひにたのりなりをくつひにたのり

ぬ 成哉。天のまをい。日三枚をら
ぬ 成哉。天のまをい。日三枚をら

ち 成哉。天のまをい。日三枚をら
ち 成哉。天のまをい。日三枚をら

ち 成哉。天のまをい。日三枚をら
ち 成哉。天のまをい。日三枚をら

ち 成哉。天のまをい。日三枚をら
ち 成哉。天のまをい。日三枚をら

ち 成哉。天のまをい。日三枚をら
ち 成哉。天のまをい。日三枚をら

ち 成哉。天のまをい。日三枚をら
ち 成哉。天のまをい。日三枚をら

なみ

流淨リウジヤウの言コトはちかたしき

なみのぶこりも

不淫者フインシャ誰タレぞゾの言コトはちかたしき

いとハリわしとイハいてらちち

ながりや

長壽チヤウジュの言コトはちかたしき

あ

まじとねほほ

ほほとホホきんまうましくシにちちを人ねほほニはハあ

あせ

寂者シヤクシャの言コトはちかたしき

あせ

あせ

神代終カミヨハシの言コトはちかたしき

あせ

あせ

それよりとつものうむらきより先せ。校衣キョウイちんやせハ

あせの言コトはちかたしき

七賢人シケンジンの言コトはちかたしき

あせ

晋七賢シンシケン 嵇康 阮籍 山濤 劉伶 阮咸 向秀 王戎

なめ

と人り女子トヒメの言コトはちかたしき

なりの言コトはちかたしき

なりの言コトはちかたしき

百十二

そのかりをひきよはせ。日五ニチイちりをさすは。日一ニチイチの言コトはちかたしき

かりたしき

光祥

車クルマ駕カ未ミ不フ動ドウ。日十九ニチイジュウの言コトはちかたしき

なにな

こも

吠狗ヘイコ而ニ奉ホウ。日十九ニチイジュウの言コトはちかたしき

たの

長寿チヤウジュの言コトはちかたしき

まむ

ながりや

あせ

あせ

あせの言コトはちかたしき

あせの言コトはちかたしき

あせの言コトはちかたしき

あせの言コトはちかたしき

あせの言コトはちかたしき

ながさふの

長世の万山うたをいふたれつきを
おちたれハチウキ世のわらわら

ながさふの

永の万山うたをいふたれつきを
おちたれハチウキ世のわらわら

ながさふの

長息之病い言五 たまつ尻痛くあきせハチウキをけき
のきりあやゆものを。日林分 災業氣噴之 挨拶

ながさ

ながさふの

えれ徳教の百九と一へえをゆけや
おえ夜寐えりいれ山をむ人。仙をよ

ながさ

七世のうたをいふたれつきを
おちたれハチウキ世のわらわら

ながさふの

長道の万山うたをいふたれつきを
おちたれハチウキ世のわらわら

ながさふの

長あしより腰まじとよまて道を人の山まじ
よていふたれつきを。日林分 災業氣噴之 挨拶

ながさ

七世のうたをいふたれつきを
おちたれハチウキ世のわらわら

ながさふの

長あしより腰まじとよまて道を人の山まじ
よていふたれつきを。日林分 災業氣噴之 挨拶

ながさふの

長あしより腰まじとよまて道を人の山まじ
よていふたれつきを。日林分 災業氣噴之 挨拶

ながさ

ながさふの

長あしより腰まじとよまて道を人の山まじ
よていふたれつきを。日林分 災業氣噴之 挨拶

七世のうたをいふたれつきを
おちたれハチウキ世のわらわら

ながさふの

浪平忍のうたをいふたれつきを
おちたれハチウキ世のわらわら

ながさふの

浪平忍のうたをいふたれつきを
おちたれハチウキ世のわらわら

ながさふの

浪平忍のうたをいふたれつきを
おちたれハチウキ世のわらわら

ながさふの

浪平忍のうたをいふたれつきを
おちたれハチウキ世のわらわら

ながさふの

浪平忍のうたをいふたれつきを
おちたれハチウキ世のわらわら

ながさふの

浪平忍のうたをいふたれつきを
おちたれハチウキ世のわらわら

ながさふの

浪平忍のうたをいふたれつきを
おちたれハチウキ世のわらわら

こきつて
煮らうと
いひきりし

酒田の三
あまきさらせんや
あまきさらせんや
あまきさらせんや

たけをのむへし
酒一坏はをむねは

にひちめ

新嘗の
乃後新嘗也
謂之新嘗也
今あまきは之解を

所後也
酒一坏はをむねは

にひちめ

乃後新嘗也
謂之新嘗也
今あまきは之解を

たけをのむへし
酒一坏はをむねは

にひちめ

乃後新嘗也
謂之新嘗也
今あまきは之解を

たけをのむへし
酒一坏はをむねは

にひちめ

乃後新嘗也
謂之新嘗也
今あまきは之解を

たけをのむへし
酒一坏はをむねは

にひちめ

乃後新嘗也
謂之新嘗也
今あまきは之解を

たけをのむへし
酒一坏はをむねは

にひちめ

乃後新嘗也
謂之新嘗也
今あまきは之解を

たけをのむへし
酒一坏はをむねは

にひちめ

乃後新嘗也
謂之新嘗也
今あまきは之解を

たけをのむへし
酒一坏はをむねは

にひちめ

乃後新嘗也
謂之新嘗也
今あまきは之解を

○奴

ぬぶつて

股をぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて

ぬぶつて

股をぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて

ぬぶつて

股をぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて

ぬぶつて

股をぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて

ぬぶつて

股をぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて

ぬぶつて

股をぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて

ぬぶつて

股をぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて

ぬぶつて

股をぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて

跪礼匍匐

礼並止之

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

跪礼匍匐 申すべし

礼並止之 申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

申すべし

うし
ばねれろ 離破。○方五たひれろよはけるむらのまゝのてりも
は ○方一

けひーてませ 天而存き。後紀景で三年取目堅人云天在久體方灰止共仁理母礼止衣
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

はほゆくかぜのいやせ ○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

は 後紀。○方六はきよみくららるる。こ種代よ
○方上つせころ候ゆく
風のいやそやにや

くつそきさつりつり
むづら
はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

はほ
はほ
はほ

かりうね乃ちつこまきして毎出
こちの林々きこんこつせし
げつを
最底こまはく色。○方山一りのさろのつぎ

はふむー
むーと大をまらうやうにすれはむ
はぬ
おぼし。○方山をまけてそのかみ
一まにこちをけりてつたをく

時ころ田にむむ。○はうらそふり
きまつ山はむきけしちうき今も
浪ころきくれ。○は六約ひく浪乃
又ほのこまをまらう。○日
○方山あつわのわはれむしたん
又ほのこまをまらう。○日
とらふハ
おぼし。○方山はきん
お。月かきほきん
お。月かきほきん

はぬ
おぼし。○方山はきん
お。月かきほきん

はぬ
おぼし。○方山はきん
お。月かきほきん

はぬ
おぼし。○方山はきん
お。月かきほきん

はぬ
おぼし。○方山はきん
お。月かきほきん

はぬ
おぼし。○方山はきん
お。月かきほきん

すつこふりいそまねしはさらそん
小田をそむうら。○日五り
標者白色。○方山をそむうら
まうとにたをそむうら
乃ちなるたま
すつこふりいそまねしはさらそん
小田をそむうら。○日五り
標者白色。○方山をそむうら
まうとにたをそむうら
乃ちなるたま

はぬ
おぼし。○方山はきん
お。月かきほきん

はぬ
おぼし。○方山はきん
お。月かきほきん

はぬ
おぼし。○方山はきん
お。月かきほきん

はぬ
おぼし。○方山はきん
お。月かきほきん

はぬ
おぼし。○方山はきん
お。月かきほきん

はぬ
おぼし。○方山はきん
お。月かきほきん

はぬ
おぼし。○方山はきん
お。月かきほきん

はぬ
おぼし。○方山はきん
お。月かきほきん

とをもほし 久未経巻の。方十三月七日もかりりけりともくふらふも
文選 終撃 ヒツツラ ひさにぬ。ろの山乃ららちやれころ。は六 朝露のきこふはかしの

いけひさにぬらふ。はあ ひさぢらば 久未在者。方五十九のたのこのへん
かちぢまいにけや

ひ ヒツツラ 呼もし。方十三世本のひしとちなる。まてなけきつる。かも ヒツツラ は五十九ちぢらひ
てまらふらひ鼻し。いぢひにぢとあぢぬひけりきぢて ヒツツラ 源ノ鳥ノのあ

わしひしとちぢらふ。は ヒツツラ 常々扱し。日 ヒツツラ 扱丘。はひたつひ。方五
あぢぢなをひひし。は ヒツツラ 直土。はわつてきし。ちて ヒツツラ 日九直

をくともはねりきて ヒツツラ 日大ねほき ヒツツラ 日とまき ヒツツラ 日とむ ヒツツラ 日とちぢらひ
と乃したちるをひて ヒツツラ 日常陸。俗 ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

漬しひちしりもほし。たの約ちし又ひつちも ヒツツラ 方十三かたせに結をちらひ ヒツツラ 日とちぢらひ
しをやつひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

おけれ。 ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ
ちま ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

つち。 ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ
あめ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

あめのちぢらひをひて ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

やま ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

ふ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

を ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

ち ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

ひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

あ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

や ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

神 ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

鼻 ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

え ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ ヒツツラ 日とちぢらひ

こむと云
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

あまのつひひ
ひげかきぢりぞ

あまのつひひ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ひげかきぢりぞ
ひげかきぢりぞ

ゆいよあるらむ人のみゆもに。月ナハ
人のねやのつら。人のまハ秋の名結た
ひとのちのつごと 人之申言又横を
○方人のちうこと

きこつなゆち。月九人のちうこときける。かむ。月ハ
ちん人のよとそとちまかもあつぬ日ちま。月の経ぬむ
ひとねいり

人お者言ふ。方ま。ひとまの山ナカ
月まら。あ。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

い。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

さ。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

か。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

わ。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

又。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

つ。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

あ。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

ふ。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

ま。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

あ。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

い。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

う。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

え。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

お。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

か。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

け。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

こ。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

さ。月ハ。ひとま。月ナカ
ひとねいり

一しら尾巾きあへん應きめり流きまりかてい。日録明 かつらゝのきのくよた
 ちて大さくこいひきふら次もやまへむきて。万十杖風の吹くよて後きつた
 なるつめの天はぬれも。日三たくひれのかくすけいも名をけせの山かけけいあむ
 日三ころへの天領巾よりりき。日ユとけりひくまつらさひめつまこひまきさうりよ
 されひー山の名。日三まのひらひらしてかま。日十五 松浦佐用壱面遂脱領巾
 摩之傍者莫不流汗因号此山曰領巾摩之嶺也。和領巾此礼婦人頂上飾也。
 日崇神領中頭。日天正十一年三月詔曰赤膳夫米女等之平織肩巾並莫服。遊仙
 迎凡帳子背金者。領巾中帳子也。單曰領巾。復曰帳子也。春。さほほ今んとてゆるこ
 えちれれ舟もひきつり。社をさるるかふしき。式太神宮時表束衣信比礼八條。
 礼服無領巾。極。万七 翠くれはらけきさつつけ。
 つまよ舟のひきつりのたえむとをを
 礼服無領巾。ひくこと
 引張。古下あくらあ乃
 かつのこてりあひくことにはまひ
 引張。と修ん
 ことよ。万八 衣
 百五十

一しら尾巾きあへん應きめり流きまりかてい。日録明 かつらゝのきのくよた
 ちて大さくこいひきふら次もやまへむきて。万十杖風の吹くよて後きつた
 なるつめの天はぬれも。日三たくひれのかくすけいも名をけせの山かけけいあむ
 日三ころへの天領巾よりりき。日ユとけりひくまつらさひめつまこひまきさうりよ
 されひー山の名。日三まのひらひらしてかま。日十五 松浦佐用壱面遂脱領巾
 摩之傍者莫不流汗因号此山曰領巾摩之嶺也。和領巾此礼婦人頂上飾也。
 日崇神領中頭。日天正十一年三月詔曰赤膳夫米女等之平織肩巾並莫服。遊仙
 迎凡帳子背金者。領巾中帳子也。單曰領巾。復曰帳子也。春。さほほ今んとてゆるこ
 えちれれ舟もひきつり。社をさるるかふしき。式太神宮時表束衣信比礼八條。
 礼服無領巾。極。万七 翠くれはらけきさつつけ。
 つまよ舟のひきつりのたえむとをを
 礼服無領巾。ひくこと
 引張。古下あくらあ乃
 かつのこてりあひくことにはまひ
 引張。と修ん
 ことよ。万八 衣
 百五十

○不

一しら尾巾きあへん應きめり流きまりかてい。日録明 かつらゝのきのくよた
 ちて大さくこいひきふら次もやまへむきて。万十杖風の吹くよて後きつた
 なるつめの天はぬれも。日三たくひれのかくすけいも名をけせの山かけけいあむ
 日三ころへの天領巾よりりき。日ユとけりひくまつらさひめつまこひまきさうりよ
 されひー山の名。日三まのひらひらしてかま。日十五 松浦佐用壱面遂脱領巾
 摩之傍者莫不流汗因号此山曰領巾摩之嶺也。和領巾此礼婦人頂上飾也。
 日崇神領中頭。日天正十一年三月詔曰赤膳夫米女等之平織肩巾並莫服。遊仙
 迎凡帳子背金者。領巾中帳子也。單曰領巾。復曰帳子也。春。さほほ今んとてゆるこ
 えちれれ舟もひきつり。社をさるるかふしき。式太神宮時表束衣信比礼八條。
 礼服無領巾。極。万七 翠くれはらけきさつつけ。
 つまよ舟のひきつりのたえむとをを
 礼服無領巾。ひくこと
 引張。古下あくらあ乃
 かつのこてりあひくことにはまひ
 引張。と修ん
 ことよ。万八 衣
 百五十

ふもすねち。今俗よりあきとくしと又似たり。源ふこ
ふこ 徳入。日彦枝
拾臨。八い

ふこ 伏し。方土かきろひのよろきいふちのかく
まにふて死も沖ちいふ。日

ふこ 二無し。方土ふこつちうき志を。まねいふのたひのらせよ
へくわつハちうりぬ。日三いなきまにきまゆるむらふつ

ふとね 太諱辞。日神代乃使天咫至今学其解除之太諱
而宣之否。太諱辞此云布美那夜須。式大枝。天咫祝内

乃太祝祝乎。平宣礼如世久乃良使。日。方十七。ちうりくこ乃ちのうしこといひえら

へちういのちもとらと。天々ちられ。神をへほちとてまつて。移あことをかりあこ

ふみむ 食ふくむ。ほむつむむ。こは。方。喜節をまつに。あら。昔や。の
若めのうめも。ま。ち。ち。り。日。大。ワ。さ。う。ふる。き。か。き。つ。乃。さ。ら。ら。た。い。ま

ふみなら 踏平。日。岩。林。官。軍。を。聚。而。踊。踏。等。因。心。其。山。日。郡。夜
山。注。踊。阻。此。云。布。美。那。夜。須。方。今。を。ま。や。ひ。さ。か。れ。な。ほ。り

ふみから 踏格。方。土。及。之。乃。ち。も。せ。せ。よ。さ。か。ら。し
われ。ち。ち。ま。つ。し。い。わ。に。つ。け。さ。う。い

ふみたて 復ち。方。三。中。ふ。り
に。ち。り。さ。た。て

ふみたて 復ち。方。三。中。ふ。り
に。ち。り。さ。た。て

あらし 編修。古。下。つ。つ。る。乃。る。え。ハ。ち。う。つ。え。た
ち。ふ。ら。ち。え。ち。う。つ。え。の。え。ハ。ち。う。つ。え。に

ねちから ねふる 後登之。古中が。あいたまの。つぎあれハあ。そのの月つき

ねりさけ 日十な。一。百八。振放見。うか。ほ。ほ。さ。せて。い。こ。か。二。さ。ら。を。う。り。さ。け。う。う。一。仲。夜。あ。ま。の。そ。う。あ。え。こ

ねぐま 源順家集。ね。ぎ。う。の。り。や。を。き。く。き。れ。ろ。ろ。か。み。の。二。人。遊。居。て。方。三。み。野。を。ん。ん。り。あ。り。ひ。お。い。い。い。日。五。に。は。い。り。の。う。り。

ねりちらび 一人遊居。方。三。み。野。を。ん。ん。り。あ。り。ひ。お。い。い。い。日。五。に。は。い。り。の。う。り。

ねち 源順家集。ね。ぎ。う。の。り。や。を。き。く。き。れ。ろ。ろ。か。み。の。二。人。遊。居。て。方。三。み。野。を。ん。ん。り。あ。り。ひ。お。い。い。い。日。五。に。は。い。り。の。う。り。

ねむ 舟子。方。九。こ。あ。ま。い。こ。を。あ。と。と。い。い。こ。

ねりちらび 舟子。方。九。こ。あ。ま。い。こ。を。あ。と。と。い。い。こ。

ねりちらび 舟子。方。九。こ。あ。ま。い。こ。を。あ。と。と。い。い。こ。

ねちから ね。ち。か。ら。ね。ふ。る。

ねりさけ ね。り。さ。け。

ねぐま ね。ぐ。ま。

ねりちらび ね。り。ち。ら。び。

ねち ね。ち。

ねむ ね。む。

ねりちらび ね。り。ち。ら。び。

ねをきかたりかへり。証ことかへりといへる。あつるや。万九すらかうまひよし
あれや。いらりのあつる。とほてまつりや。月十七。まつかうあひまておまや。め
さやま。のをちうろうの。 **まつけ** 経。方。ま。あ。し。刀
思ひます。

うわをま。まる。秋。ぬ。の。い。け。の。む。け。ろ。ね。が。と。り。こ。月。七。い。く。け。て。まつ。こ。と。ろ
刀。秋。を。ひ。て。と。夫。な。つ。まつ。う。け。あ。を。そ。れ。く。や。ん。せ。さ。や。乃。さ。き。ま。た。く。け。て。ね。は。
こ。う。 **まつて** た。ん。ま。い。な。か。十。指。手
ま。と。ひ。送。し。右。上。大。戸。惑。子。林。い。方。六。五。ふ
る。乃。こ。こ。い。た。り。や。め。の。ま。い。ひ。ま。り。て

まつわたり 曲。句。入。右。上。あ。わ。ゆ。き。の。か。わ。ら。む。み。を。ろ。く。き。た。く。ま。か。かり
い。遊。仙。拍。擲。如。房。向。和。記。名。男。女。金。舍。金。之。財。石。直。身。体。石。驚。猿。衆
こ。い。た。他。よ。か。つ。め。け。い。へ。る。まつ。の。池。を。す。ま。ま。な。乃。い。け。い。や。り。
相。無。の。万。四。ち。つ。り。竹。田。の。あ。ま。なく。こ。乃。官。た。く。時。な。り。ち。ら。く。ら。く。日。正。い。ま
け。い。ろ。う。ち。かり。も。那。く。あ。と。り。まつ。わ。ち。を。ち。ら。く。ハ。日。十。容。を。乃。向。き。え
鳴。き。や。え。ら。は。根。の。あ。け。き。ま。も。も。か。も。月。六。白。鳥。の。向。せ。
こ。え。か。く。と。ま。か。月。十。七。倍。と。り。ハ。官。た。く。と。え。か。く。 **ほに** 随。ら。ん。方。五。あ
は。い。く。ハ。ち。ら。ま。に

く。日。四。ゆ。き。の。す。け。く。日。九。任。ま。は。二。隨。日。六。つ。つ。の。す。け。ま。日。七。か。い。か。く。も。き。こ
う。ま。に。ま。し。と。い。日。中。没。死。い。ま。を。ひ。の。ら。ろ。乃。ま。ま。は。あ。ち。え。う。ほ。う。い。ら。あ。く。に。ほ。ひ
と。つ **まのねく** 教。あ。ん。修。あ。す。ね。い。り。詳。は。月。一。万。五。乃。こ。し。わ。の。ほ。也
ら。か。も。い。こ。い。ち。あ。日。十。七。む。わ。の。た。い。て。ち。わ。れ。を。ハ。い。ひ。さ。す。ね。こ。ひ。き。む
か。も。日。十。九。ま。ろ。と。序。の。ま。う。を。も。も。ま。を。ま。い。まつ。や。め。か。い。ぬ。い。ぬ。く。月。三。一。よ。け。る
日。十。九。三。ぬ。や。さ。す。ね。こ。ら。う。ろ。う。ら。い。式。祝。初。不。成。一。年。二。年。外。不。在。歳
直。尾。久。傷。れ。い。後。記。註。曰。三。遍。於。世。不。在。遍。社。年。久。後。後。見。奴。い **まのひ** 蘇。心。日。下
あ。と。ら。な。の

か。し。乃。こ。つ。て。ひ。く。こ。し。ま。す。ひ。け。を。ま。か。と。こ。よ。に。も。か。も。後。記。こ。う。ら。う。や。ま。の。の
く。に。ハ。か。い。から。い。半。と。く。あ。ら。い。こ。乃。ま。ひ。ん。ね。ハ。後。没。死。い。ち。つ。き。の。こ。よ。ま。わ。い。こ。い
ち。ま。り。と。を。り。ね。き。ふ。乃。ま。ま。い。と。て。まつ。日。ね。き。ふ。と。て。わ。ひ。や。ハ **まゆをひ** 去。清。心。方。廿
い。ん。乃。い。ち。ら

わ。を。あ。つ。ら。ら。まつ。あ。の。よ。ゆ。を。ひ **まつらひ** 候。身。入。日。神。祓。能。た。か。め。し
い。た。の。山。乃。こ。乃。ま。ゆ。わ。い。ゆ。き

まつらひ 候。身。入。日。神。祓。能。た。か。め。し
い。た。の。山。乃。こ。乃。ま。ゆ。わ。い。ゆ。き

まつらひ 候。身。入。日。神。祓。能。た。か。め。し
い。た。の。山。乃。こ。乃。ま。ゆ。わ。い。ゆ。き

まつらひ 候。身。入。日。神。祓。能。た。か。め。し
い。た。の。山。乃。こ。乃。ま。ゆ。わ。い。ゆ。き

ふみをかまはりけりちねらされぬはなすれして。月太ののまのこをとりて。乃をさしあ
るに。くまろくちきるののむ。又月守。月八。較まりりゆら。乃まかり。月廿。あこまも
る。日土。せきりり。日土。さきりり
。源光とまりりて。わたり
うへ。あつきた。はまりい。やま。に。あれた。めこ。む。年の。を。あ。く。日。廿。九。あ。ゆ。き。さ。こ。し
に。あ。つ。こ。て。ま。あ。り。う。ち。あ。つ。も。あ。つ。う。年。の。あ。つ。に。日。廿。三。あ。て。こ。ま。り。を。日
土。ま。あ。り
あ。て。い。ま。あ。つ。ひ
。和。紙。の。布。又。ふ。紙。鏡。鏡。壞。こ。日。廿。七。こ。ま。り。ゆ。く。ゆ。い
か。せ。乃。の。ゆ。ほ。き。わ。き。さ。ら。き。せ
ま。あ。つ。た。ひ。ゆ。く。せ。な。う。さ。う。せ。い。え。ち。わ。れ。あ。ひ。も。と。の。福。む
。日。土。さ。ま。ら。と。ひ。乃。ま。あ。り。の。ひ。も。と。あ。つ。て。つ。け。る。の。ゆ。ら
俱。そ。れ。變。變。日。廿。六。か。ら。た。ら。の。い。り。か。り。う。け。ら。た。て。む。く。う。ゆ。く。ま。れ
く。つ。く。と。ゆ。く。竹。を。あ。つ。つ。え。ら。の。ま。り。わ。け。る。ふ。つ。と。う。を。に。き。り。た。ま。え
る。あ。り
ま。あ。り。ほ。る
。あ。り。入。日。廿。五。あ。の。け。る。や。う。う。ら
人。乃。と。あ。け。れ。と。う。定。位。を。昇。進。する。を
ま。あ。り
ま。あ。り

申し。乃。五。天。の。下。ま。を。一。た。ま。ひ。一。家。の。子。と。い。日。廿。六。げ。り。ゆ。り。を。ひ。き
つ。ふ。福。さ。れ。ら。を。の。と。ハ。川。の。せ。ま。を。せ。日。廿。七。の。く。乃。を。と。なる。山。の。く。ゆ。有
と。ま。を。一。た。ま。へ。ま。い。日。廿。五。日。雄。鬼。花。わ。ま。く。乃。を。む。く。ゆ。く。ま。あ。り。ゆ。れ。と。乃
こ。と。ね。ほ。ま。え。ま。を。ゆ。く。乃。五。た。り。ま。を。て。い。日。廿。内。う。と。ま。を。せ。日。廿。と。ま
を。さ。む。日。廿。今。あ。つ。ゆ。を。ち。か。と。人。よ。の。ま。う。れ。の。の
う。こ。ま。あ。く。さ。け。る。ハ。海。の。花。も。旋。花。か。なり
ま。あ。り。け
ま。あ。り。ら。か。あ。り
。ま。ん。悲。し。日。廿。あ。さ。ひ。て。る。ゆ。の。こ。か。ま。あ。り。け。り。く
人。乃。と。あ。け。れ。と。う。定。位。を。昇。進。する。を
う。ら。ハ。そ。ろ
ま。あ。り。や。う。に
。ま。解。の。日。廿。う。う。く。せ。な。ら。こ。ろ。と。は。う。ち。ま。り。を。こ。さ。う。と。ん
を。ら。ひ
ら。ハ。ま。さ。や。う。ふ。ん。ひ。日。廿。い。え。る。い。ま。い。さ。や。う。ふ。ん。も。か。も。と。い
ま。ね。ま。あ。り。ハ
。日。廿。細。く。日。廿。紫。林。花。を。津。年。魚。眼。丸。愛。い。日。廿。四。か。い。つ。け。の。ま。あ。り。し
ふ。し
ま。あ。り。お。日。廿。ま。ま。ら。ハ。い。も。あ。り。ア。え。れ。ハ。日。廿。五。お。日。廿。六
海。と。り。も
。日。廿。無。に。紀。日。廿。七。後。研。ま。ま。ら。り。ゆ。入。て。ゆ。く。花
と。ま。あ。り
。日。廿。有。り。む。後。松。遠。近。を。手。ま。さ。き。り。ゆ。り。ゆ。り。て。帖。吟
日。廿。手。ま。さ。き。り。ゆ。り。た。ま。ま
。日。廿。一。ハ。船。子。日。廿。大。舟。の。つ。も。り。の。ゆ。り
。日。廿。海。松。遠。近。ひ。き。ま。さ。き。り。ゆ。り
の。ら。む。と。ハ。ま。ま。ら。ゆ。り。ゆ。り。て。わ。れ。あ。り

ぬし。月土こととまの八のちまこにゆきよ

まなほ まなほ あつちよりをけかむ

まか まか 勿し。方夫ほろきまぬをまきまうり

ま ま 目し。目林代化ハナ茶林

○方 方 加つけのまよりすととぬき。まきらりもよ

まなか まなか 目之間

ありつれねハ。目端 目端 ありるもてんをへ

まな まな 験し。方六

ありきりーとのろまなうひよとぬくまで

ま ま 洪し。方十四 方十四 ありあれ

○目 目 ああまわりてららとなく男よとへえ

ま ま 日林代化 日林代化 ああり

つりー小田をまむり。次まふとをぬて

○月 月 まゆらそ乃次をふりねろー

ま ま 間使し。方九 方九 あありけれんもあ

すれらそをのろーとろもわれりやー

初とほろへきまゆらをもこひま

つきのまんれふ。宮のらちろけむふ

ま ま 間使し。方六 方六 ちまきまゆら

かひよま。月六 月六 まつむとやら

ら ら 間使し。方六 方六 ちまきまゆら

ま ま 間使し。方六 方六 ちまきまゆら

か か 間使し。方六 方六 ちまきまゆら

ら ら 間使し。方六 方六 ちまきまゆら

ま ま 間使し。方六 方六 ちまきまゆら

ら ら 間使し。方六 方六 ちまきまゆら

ま ま 間使し。方六 方六 ちまきまゆら

ら ら 間使し。方六 方六 ちまきまゆら

え ちのめえとあし。○万十まきのもも
あらしひかひてきせなりり **まぐ** 時。古下。やまかこにすけのあそ
なもまきいあしやすにーつたた

ぬーくもある。○万七松さらかけにもせむしやうまきーからあか乃花をくれ
つしけむ。○はつやとよまきーをてーこいつーうも花ささうらむむをうへ
えむ。○はつやとよまきーをてーこいつーうも花ささうらむむをうへ

まきーもとけもさし **まぐい** 馬。○万七つらうきまきむこまうさよせむ
○柿栗こいひもささひーこまうさよせむ

まぐい 移後。○物よりまきらつう山松をり
○万八まきらつうまきえむらじ

たまきにまきらつうゆあまきにまきらつうまきらつうまきらつうまきらつう
○和鹿茸状似水松 万乃万木。○式も出り

さぬきとまき **まつ乃木** 松之。○万七まつ乃花をぬらぬき
わらさうたえらうらうらぬきぬきまき

わりきこ **まつ乃木** 万乃。○万乃まつ乃花をぬらぬき
わらさうたえらうらうらぬきぬきまき

まつ乃 万乃。○万乃まつ乃花をぬらぬき
わらさうたえらうらうらぬきぬきまき

乃けかしろきかしくま **まゆ** 檀。○日に徳紀ちんやひ
たりせまたるあしきりまゆいしきん人ん

かむ 札将纏。まうむのら屋。○万五らうちん日うときにかむこまうし人の
ひさのへつらまらちむ。○日九 妹うらうらむまらちむ。○はま

まのふくき **まのふか** 和断。○万七まのふか。○万七まのふか。○万七まのふか

なうらやま **まのふか** 和断。○万七まのふか。○万七まのふか。○万七まのふか

かむ 札将纏。まうむのら屋。○万五らうちん日うときにかむこまうし人の
ひさのへつらまらちむ。○日九 妹うらうらむまらちむ。○はま

らか **まぐらたち** 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
むい ○方サまぐらたちこゝよりえきりい。日九かけえきの

まぐらうこきて 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
アをきり ○方サまぐらたちこゝよりえきりい。日九かけえきの

てちけきつたも 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
とりへるまじり ○方サまぐらたちこゝよりえきりい。日九かけえきの

まぐらのか 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
つう月らひすはさのか ○日五 母うねんとつうとさるまうとかにあきつひ

まぐらぶ 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
もや ○出で國造社受得云

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
すつふぬさくはり ○日五 母うねんとつうとさるまうとかにあきつひ

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
はのこそえやむ ○日五 母うねんとつうとさるまうとかにあきつひ

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
ト三つ器の秘製 ○方五 けきいりけきいりけきいりけきいりけきいり

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
らせ ○日六 ちやまは月よをいこすひ ○日六 ちやまは月よをいこすひ

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
ま ○日六 ちやまは月よをいこすひ ○日六 ちやまは月よをいこすひ

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
た ○日六 ちやまは月よをいこすひ ○日六 ちやまは月よをいこすひ

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
た ○日六 ちやまは月よをいこすひ ○日六 ちやまは月よをいこすひ

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
た ○日六 ちやまは月よをいこすひ ○日六 ちやまは月よをいこすひ

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
た ○日六 ちやまは月よをいこすひ ○日六 ちやまは月よをいこすひ

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
た ○日六 ちやまは月よをいこすひ ○日六 ちやまは月よをいこすひ

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
た ○日六 ちやまは月よをいこすひ ○日六 ちやまは月よをいこすひ

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
た ○日六 ちやまは月よをいこすひ ○日六 ちやまは月よをいこすひ

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
た ○日六 ちやまは月よをいこすひ ○日六 ちやまは月よをいこすひ

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
た ○日六 ちやまは月よをいこすひ ○日六 ちやまは月よをいこすひ

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
た ○日六 ちやまは月よをいこすひ ○日六 ちやまは月よをいこすひ

ま 松本刀といゆる時花乃屋より工たくりいへるた刀を
た ○日六 ちやまは月よをいこすひ ○日六 ちやまは月よをいこすひ



